

京都大学材料工学スクール夏期合宿 ふるさとで考えるこれからの材料

京都大学工学研究科材料工学専攻では、「産業は学問の道場である」という精神を、学生や若手研究者の材料教育・研究で実践するために、産業界の協力を得て京都大学材料工学スクールを開講した。本スクールでは、毎年冬に冬期フォーラムを開催し、参加企業と学生との交流会を京都大学百周年時計台記念館で開催している。この他に企業の研究者によるリレー講義なども開催している。今年は、これらの取り組みに加え、京都大学材料工学スクールの夏期合宿を開催する。

この夏期合宿を行う場所として今回、京都府最南端の三重県との県境に近い山の中にある野殿・童仙房（のどの・どうせんぼう）を選んだ。この地を選んだ理由は、まず名前がいい。これらの地区の名前をつけたのが今回利用させていただく野殿童仙房小学校である。この小学校は、昼間でも細く暗い急な山道を長い時間をかけて通う子供たちのために、親たちが府に掛け合ってきた小学校と聞いた。この小学校の前に立つと、この地に入植し、自然への畏敬と不屈の闘志でこの奥深い開拓地を開墾してきた村人たちの、学校が完成した時の喜びと誇りが感じられる。しかし、子供の数の減少による小学校の統廃合により、去年3月にこの小学校は廃校になった。廃校後、この小学校を荒廃から救ったのが、京都大学大学院教育学研究科と京都府相楽郡南山城村野殿区・童仙房区との話し合いにより、生涯学習の理論と実践の発展に寄与するための拠点に、この小学校を活用する目的で組織された野殿童仙房生涯学習推進委員会であった。現在、この組織の手によって大学と村とが共同して様々な活動が行われている。

今回、夏期合宿を、この委員会の許可を得て、この小学校で開催する。企業および大学の参加者による自己紹介を兼ねたセミナーを小学校の講堂兼体育館で開催し、音楽室や視聴覚室や図書室などを利用して小グループでの自由な話し合いを行う。夜は校庭でバーベキューを行い、昼を引いただけの教室で寝起きし、家庭科教室で朝食をとる。小学校の部活の合宿以来、経験したことのない体験を復活させる。昼間はたんぼと茶畑と林の緑に囲まれているが、夜は漆黒の闇に包まれ、雨が降ればかえるが大合唱を行い、蛇がウジャウジャいるという。生活に必要な最小限な環境で暮らす二日間である。30年前の日本の風景の中に身を置いて、心身共にリフレッシュし、生活における便利さと不便さの意味を自らに問いかけ、我が国におけるこれからの材料と人間と社会と自然のより好ましい関係のあり方をめぐる自由な議論を行いたい。

日時： 9月14日（金）14：00－15日（土）14：00

参加： 材料工学スクール参加企業、京都大学材料工学専攻大学院生、教員有志

場所： 旧野殿童仙房小学校

主催： 京都大学材料工学スクール

後援： 野殿童仙房生涯学習推進委員会

連絡先： 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院工学研究科材料工学専攻松原研究室

Tel:075-753-5456 Fax:075-753-5480

事務担当：安井 (akiko.yasui@ay4.ecs.kyoto-u.ac.jp)

山田 (nana.yamada@materials.mbox.media.kyoto-u.ac.jp)

